

JSBC2021 ルールブック ver1.3→1.4 修正箇所

2021年8月2日

～オンライン大会に即したルールの加筆および表現の修正～

【修正前】

3.2.11 橋梁の重量計測

- (1) 橋梁を仮置き場に移動した後に、橋梁の重量を4つの体重計で計測し（図-3.2）、それらの合計値を橋梁の重量とする。
- (2) 荷重載荷用の床版、工具、橋台と各橋梁のアピール用のポスターは橋梁の重量に含めない。

5.6 架設競技

架設競技は3.2と同様に実施するが、ペナルティ等は自己申告とする。

5.7 載荷競技

自己判断に基づき橋梁が安定的に載荷できるとした場合は、100kgf以上の錘を用いて静的に載荷できる。錘はどんなものでも良いが、重量を動画内で示す必要がある。・・・

5.8 表彰

5.1~5.7を遵守すれば、全カテゴリーにおいて表彰対象となる。

【修正後】

3.2.12 橋梁の重量計測

- (1) 橋梁を仮置き場に移動した後に、橋梁の重量を4つの体重計で計測し（図-3.2）、それらの合計値を橋梁の重量とする。
- (2) 体重計をはじめとする重量計測機器の示す数値について、デジタル式の場合は機器の示す表示桁数そのままを記録する。アナログ式は、針の最小メモリとその1/10を目測して記録する。
- (3) 荷重載荷用の床版、工具、橋台と各橋梁のアピール用のポスターは橋梁の重量に含めない。

5.6 架設競技

架設競技は3.2と同様に実施するが、ペナルティ等は自己申告とする。

5.7 プレロード

架設競技終了後から載荷競技開始までの期間に、載荷プロセスの確認および計測機器の動作確認を目的として、床版+10kgfまでのプレロードを行ってよい。

プレロードは図-3.3に示す①~⑥の各載荷位置に対し1回までとし、最大6回まで行ってよい。1回あたりのプレロードは床版を載せてから除荷完了まで1時間以内に終わること。プレロードの荷重は床版重量を含め、合計20kgf以内に収めなければならない。

5.8 載荷競技

自己判断の確認に基づき橋梁が安定的に載荷耐荷できる判断とした場合は、100kgf以上の錘を用いて静的に載荷できる。錘はどんなものでも良いが、重量を動画内で示す必要がある。・・・（以下、修正前と同文）

5.9 表彰

5.1~5.7を遵守すれば、全カテゴリーにおいて表彰対象となる。